

## 6. 気象の状況

三海面に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島とならんで温暖な地方である。しかし両総台地は内陸性気候で寒暑の差はやや大きく、反対に太平洋岸及び内湾沿岸は海洋性の気候で比較的暖かく、特に房総南部沿岸地帯は冬も霜をみないほどである。

雨量は地域により差はあるが、房総丘陵の南側、銚子地方が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも最も雨量の少ない地域である。

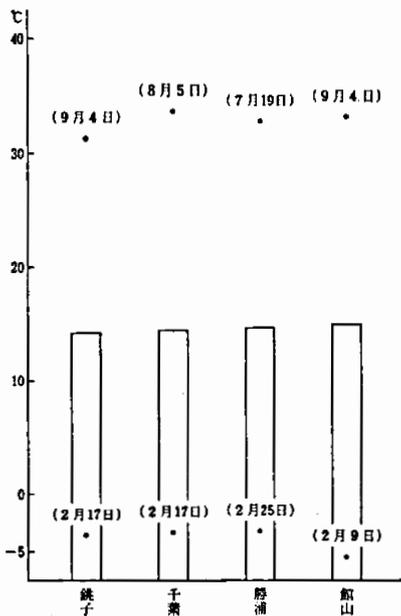
昭和61年の本県の主な気象概況は次のとおりであった。3月下旬に発達した低気圧が房総半島沖に達し、県内全般で大雨・大雪・大風を引き起こし、各地で停電や交通渋滞となった。これにより、農地被害面積は1,357 ha、被害額は10億1,068万円に達した。

6月下旬には、台風5号崩れの温帯低気圧が関東を横断、雷雨となり、ことに葛南地方では降雹となった。被害は主に白井町・沼南町・印西町・栄町・本埜村で、被害総面積445.89ha、被害総額11億7,343万円に達した。

また、8月上旬の台風10号は温帯低気圧となって九十九里浜に上陸後、県土を縦断し、これにより市川市ほかで天災融資法の適用を受けるなど、各地に河川の増水や氾濫を起こした。

10月上旬の台風18号は、野菜などの農作物に大きな被害を及ぼしたが、太平洋沿岸の市町村のみであった。

平均気温と最高・最低気温（61年）



年間降水量（61年）

